

昭和38年に入社した頃とその後に経験したこと

1. 当時の政治情勢

昭和35年7月、安保闘争により退陣した岸信介内閣のあとを受けて、池田内閣が発足、「所得倍増計画」をスローガンとして、高度経済成長政策を行い、国会では「私は嘘は申しません」と答弁され話題になりました。

そして、「貧乏人は麦を食え」との発言があり、国民の怒りを誘った政治家でもありました。今になって想えば健康には大変良い食事のようで…

国民の所得は増えたものの、物価もそれなりに倍増したように感じました。

(第1次池田内閣 昭和35年7月～第3次池田内閣 昭和39年11月まで)

2. 入社式と新入社員のその後

新入社員の採用人数は、合計 221 名、内43名が川崎製油所勤務に配属され、残り 178 名が販売部門として、本社直轄のサービスステーション勤務(ガソリンスタンド)に配属された。

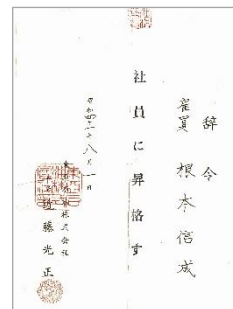
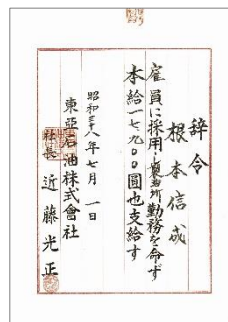


入社式は、4月1日、東京の産経会館で行われ、その翌日からは、それぞれの配属先での勤務となった。入社式当日、一冊の著書(社長・近藤光正著「道一筋に」)が配布され、熟読するようにとの指示があった。昭和 40～41 年頃、共同石油㈱の設立により、本社直轄のサービスステーション勤務(ガソリンスタンド)に配属された社員は、共同石油㈱および東亜石油販売㈱に移籍された。

3. 雇用形態

新入社員から正社員になるまで、3 年間を要した。

- (1) 入社から3ヶ月間は試採用期間
- (2) 3ヶ月経過後に雇員として採用される。
- (3) 雇員に採用後、3 年後に社員として採用された。



4. 通勤手段

川崎駅から会社までの通勤手段は2通りの経路があった。

- (1) 市営トロリーバスによる通勤

川崎駅(小美屋デパート前・現在の川崎DICE)から乗車、市役所前・富士見公園前・臨港警察署前・鋼管水江北門前から鋼管水江正門前にて下車

トロリーバスは昭和 42 年 4 月に廃止され、川崎市営バスに変わり現在に至っている。

- (2) 川崎鶴見臨港バスによる通勤

駅前の地下道を通り、バス停(旧太田病院前)から川21系統・急行日立造船行に乗車、川崎駅前から臨港警察署前まで通過、約 15～20 分位で、鋼管水江正門前にて下車

バスはいすゞ自動車製のボンネット型式の車両が多かった。

5. 当時の国鉄川崎駅と周辺

当時の川崎駅は、東海道線の列車は停車せず、横須賀線の列車のみ停車、東海道線はモハ 110 系 15 両編成、その後、モハ 113 系の車両が運用されるようになった。横須賀線はモハ 70 系 12 両編成で運行されていたが、その後モハ 113 系 15 両又は 11 両編成が運行された。

昭和 55 年 10 月に大船－東京間の東海道線と横須賀線の線路が分離され、横須賀線は、横浜～新川崎～品川のルートに変更され、東海道線の全列車が停車することとなった。



モハ 113 系車両

*川崎駅の改札口と駅舎について

当時の駅事務所・改札口は 1 階にあり、その後、高架化された駅舎が昭和 63 年頃に完成し、改札口・駅事務所は 2 階に移動し、現在に至っている。同時に従来川崎駅北口の改札口は閉鎖されたが、閉鎖に反対する抗議行動は相当長期間に渡って行われていた。

*駅前の地下道

駅改札口からバス停までは、駅前の地下道を利用していました。この地下道は、昭和 37 年 11 月 27 日に川崎駅前公共地下道として開通した。当時、駅前からバス停までは、地上を走行していた京浜急行の踏切を渡る必要があり、その利便性を考慮して、当該地下道が建設されたものと思われる。その後、この地下道は大規模な拡張工事を経て、昭和 61 年頃にアゼリア地下街として開店し現在に至っている。

*京浜急行の高架化

当時地上を走行していた京浜急行は、昭和 41 年頃に高架化され、そのガード下は、バス路線の発着場所として使用されている。

6. 製油所の近傍

(1) 東亜会館(現・東亜石油本社ビル)

バス停、鋼管水江正門前で下車すると、目前に 2 階建ての木造建築物があり、東亜会館の名称で社員寮として、課長・係長・班長クラスの方々が居住されていた。

(2) 神奈川臨海鉄道・水江線

市道水江通りに沿って敷設された線路敷で、9 地区の西側・本館事務所の西側を通り、第 3 工場そして水江通りを横断して、日本鋼管(株)の敷地内へと敷設された鉄道専用線 9 地区の西側を過ぎた場所で東亜石油支線として分岐、共用道路横の線路敷を通り製油所の第一工場の貨車出荷設備まで敷設されていた。水江町線は平成 27 年に廃止された。東亜石油支線は、昭和 50 年頃第 1 工場に FLG 装置を含む一連の装置建設のため廃止された。

(3) 共用道路

バス停・鋼管水江正門前下車から当時の製油所の本館事務所までは、共用道路(大阪製糖と東亜石油との共用で使用)を通行して通勤していた。

現在の INTEG・PV 装置のエリアは、当時大阪製糖の事務所・工場の敷地で昭和 41～42

年頃に買収し、跡地に建設されたものである。その後、その奥の三井製糖敷地も買収し、発電所(ジェネックス)等が建設されたので、共用道路の名称は使用されなくなった。

7. 入社したころの東亜石油川崎製油所

(1) 東亜石油川崎製油所正門

バス停から共用道路を通行し、約150m位の先の右側に入口門があり、東亜石油第1工場の正門であった。現在は、FLG門となっている。

(2) 本館事務所

第1工場の正門を入った左側に鉄筋コンクリート2階建ての事務所で、1階は玄関を入って左側は経理課の事務所、右側が総務課・人事課などの事務所であった。2階は会議室と特殊試験室になっていた。

(3) 社員のロッカールーム

門を入った右側には社員のロッカールーム等が配置された建物があった。

(4) 第1工場の装置等

第1工場内は、次のような装置が整然と配置されていた。

第1蒸留装置(20,000BBL/日)、灯油硫酸洗浄装置、アルカリ中和装置、ボイラー(日立バブコック製)、陸上出荷設備(ローリー出荷・貨車出荷)、オイルセパレーター・原油タンク、重油タンク・製品・半製品タンク、原油受入れ設備(栈橋)などであった。

(5) 第2工場の装置群

共用道路を通行し、約100m先の左側に第2工場の入口門、警備保安消防事務所、消防車の車庫が配置されていた。設備関係はつぎのとおり

＊ 装置群:第2常圧蒸留装置(30,000BBL/D)、ガソリン洗浄装置(MEROX装置)、ガス回収装置、UOP式ユニファイニングプラット装置、No.1灯油水素化脱硫装置、後にNo.2軽油水素化脱硫装置が第2常圧蒸留装置の東側に建設された。

これらの装置群は、昭和61年頃流動接触分解装置(FCC装置)の建設に伴い、No.2軽油水素化脱硫装置を除き全て撤去された。

＊ ユーティリティー施設として、ボイラー・自家発電装置、東電からの高圧受電設備、純水製造装置、廃棄物焼却装置、フレアスタック設備、オイルセパレーター、ブローダウNSTACK等

＊ 貯蔵施設は、原油・半製品・製品の貯蔵タンク群、LPGの貯蔵用球形タンク

＊ 出荷設備として、製品の海上出荷設備、LPGのローリー出荷設備

＊ 事務所として、製油課事務所、工務課設備係、工事係、計電課計器係・電気係の事務所
プレハブ型式に建物内に集約されていた。



製油課と工務課・計電課の事務所
(昭和41年)

8. 勤務体系

製造現場での勤務体系・・・12 時間交代の3直2交代制

*製油 2 課 1 係は、第 2 常圧蒸留装置、ガソリン洗浄装置、
ガス回収装置を担当し、1 直班長を含めて 7 人態勢で勤務

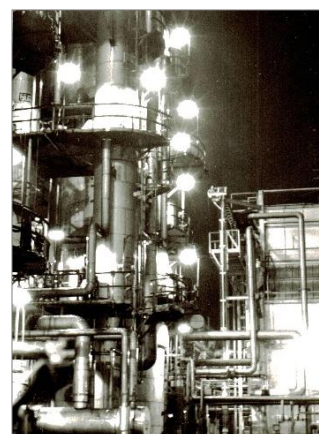
*製油 2 課 2 係は、UOP式ユニファインングプラット装置、
No.1 灯油水素化脱硫装置を担当し、1 直班長を含めて
5 人態勢で勤務



第 2 常圧蒸留装置の計器操作パネル
(昭和 38 年)



第 2 常圧蒸留装置の蒸留塔頂部
から装置を望む



第 2 常圧蒸留装置の夜景

9. 新入社員の教育

各現場での装置の概要、作業工程、作業にあたっての安全上の
注意事項等の詳細について説明があった。特に印象に残った教育は、タンクローリー出荷設
備で係長からの安全教育であった。

「タンクローリー車がタンクの蓋を解放して、街中を走っている風景を見かけるが、君たちに
その理由が解るか？」との質問であった。

理由は、この操作を省略してタンク内にガソリン蒸気が充満している状態で灯油を積み込
むと爆発することがあるとのこと。以前この出荷設備で消防係員立ち合いで再現したところ、
消防係員の目の前で爆発したとのこと。タンク内にガソリン蒸気が充満し濃度が爆発範囲に
ある場合に、灯油積み込み時に発生する静電気が着火源となり爆発するとのことであった。

10. 新入社員の業務

- (1) 直当たり2回、装置内の現場の運転状況把握のため、温度・圧力・流量等の記録と装置内の
パトロール
- (2) 品質管理のため、1 直 1 回の全ての製品・半製品のサンプル採取と試験室への運搬
- (3) 昼勤時の夕食の調理

班員から毎月500円を徴収、米・缶詰を購入、夕方 5 時頃に調理して食事、この食事が終
わるとようやく間もなく勤務が終了するとの実感が湧いてきた。

飯炊きの方法：先輩から伝授された方法で、人数分の弁当箱に米を入れて、水洗い後、蒸
気釜にて蒸し、約 15～20 分程で炊き上がる。

先輩からの注文は、柔らかめ、硬め、お粥など、なかなか難しい注文があって苦労した。